

# 松岡久和 教授 略歴・主な業績

## 略 歴

### 略 歴

- 1956年 3月 滋賀県長浜市に生まれる。
- 1979年 3月 京都大学法学部卒業
- 1981年 3月 京都大学大学院法学研究科修士課程修了
- 1983年 3月 京都大学大学院法学研究科博士後期課程中途退学
- 1987年 8月 ドイツ連邦共和国マールブルク大学客員研究員（～1989年 1月）

### 職 歴

- 1983年 4月 龍谷大学法学部常勤講師
- 1984年 4月 龍谷大学法学部助教授
- 1994年 4月 龍谷大学法学部教授
- 1995年 4月 神戸大学法学部教授
- 1999年 4月 京都大学大学院法学研究科教授
- 2017年 4月 立命館大学大学院法務研究科教授（～現在に至る）

### 所属学会

- 民主主義科学者協会法律部会
- 日本私法学会
- 金融法学会
- 日本消費者法学会
- 日本登記法学会

### 学術活動・社会活動等

- 1993年10月 日本私法学会理事（～1994年10月）
- 1994年 9月 京都市消費者保護審議会（後に消費生活審議会）委員（～2010年11月）
- 1999年10月 日本私法学会監事（～2005年10月）
- 2001年 5月 法制審議会担保・執行法制部会幹事（～2003年 1月）
- 2001年10月 司法試験及び新司法試験第2次試験考査委員（～2009年 9月）

2001年10月	宇治市断水問題検討委員会委員 (～2001年12月)
2002年 4 月	宇治市入札監視委員会委員長 (～2017年 3 月)
2002年 4 月	宇治市個人情報保護審議会委員 (～2022年 3 月)
2002年 4 月	京都府公害審査会委員 (～2014年 3 月)
2005年10月	民主主義科学者協会法律部会理事 (～2017年10月)
2007年10月	日本私法学会理事 (～2011年10月)
2008年10月	日本登記法学会顧問 (～現在に至る)
2008年11月	日本消費者法学会理事 (～現在に至る)
2008年12月	京都市消費者保護審議会(後に消費生活審議会)会長 (～2010年11月)
2009年10月	日本私法学会国際交流委員会委員 (～2017年 3 月)
2009年11月	法制審議会民法(債権関係)部会委員 (～2015年 2 月)
2012年 4 月	京都府開発審査会委員 (～2024年 5 月)
2013年 4 月	京都大学大学院法学研究科副研究科長 (～2015年 3 月)
2013年 4 月	京都大学研究教育評議会評議員 (～2015年 3 月)
2014年 7 月	宇治市個人情報保護審議会委員 (～2022年 3 月)
2014年 7 月	京都府開発審査会会長 (～2024年 5 月)
2014年10月	日本私法学会国際交流委員会委員長 (～2017年 3 月)
2016年 4 月	消費生活アドバイザー資格試験技能審査委員会委員 (～2023年 3 月)
2018年12月	京都弁護士会懲戒委員会委員 (～2021年11月)
2019年10月	大阪市立大学(後に大阪公立大学)教育課程連携委員会委員 (～2026年 3 月)
2023年10月	大津市消費生活審議会会長 (～現在に至る)
2024年 6 月	長浜信用金庫非常勤監査役 (～現在に至る)

## 主な業績

### 単 著

『物権法』

(成文堂) (2017年 3 月)

『担保物権法』

(日本評論社) (2017年 3 月)

共著・共編著

『中国契約法の研究——日中民事法学の対話——』

小口彦太編著  
瀬川信久、渡辺達徳、韓世遠、王成と共著  
(成文堂) (2017年3月)

『18歳からはじめる民法 [第3版]』

潮見佳男、中田邦博と共編著  
(法律文化社) (2017年4月)

『Before/After 民法改正』

潮見佳男、北居功、高須順一、赫高規、中込一洋と共編著  
(弘文堂) (2017年9月)

『民法入門・総則 [第5版] エッセンシャル民法1』

永田眞三郎、松本恒雄、横山美夏と共著  
(有斐閣) (2018年4月)

『新プリメール民法3 債権総論』

山田希、田中洋、福田健太郎、多治川卓朗と共著  
(法律文化社) (2018年5月)

『中国合同法研究——中日民事法学之対話』

小口彦太編  
韓世遠、王成、瀬川信久、渡辺達徳と共著、文元春、楊遠舟訳  
(人民法院出版社) (2019年6月)

『デイリー六法 [2018年版～2026年版]』

民法関係頁を鎌田薫または片山直也と分担編修  
(三省堂) (2018年～2025年)

『18歳からはじめる民法 [第4版]』

潮見佳男、中田邦博と共編著  
(法律文化社) (2019年9月)

『物権 [第2版] エッセンシャル民法2』

永田眞三郎、松本恒雄、中田邦博、横山美夏と共著  
(有斐閣) (2019年10月)

「将来債権譲渡と抗弁の対抗」

(高須順一と対談)

道垣内弘人、中井康之編著

『債権法改正と実務上の課題』

(有斐閣)(2019年11月)

『新基本法コンメンタール 物権』

鎌田薫、松尾弘と共編著

(日本評論社)(2020年2月)

『ヨーロッパ私法・消費者法の現代化と日本私法の展開』

中田邦博、若林三奈、潮見佳男と共編

(日本評論社)(2020年3月)

『新プリメール民法3債権総論 [第2版]』

山田希、田中洋、福田健太郎、多治川卓朗と共編著

(法律文化社)(2020年4月)

『新・コンメンタール 民法(財産法) [第2版]』

中田邦博と共編著

(日本評論社)(2020年9月)

『改正債権法コンメンタール』

松本恒雄、鹿野菜穂子、中井康之と共編著

(法律文化社)(2020年10月)

『新・コンメンタール 民法(家族法)』

中田邦博と共編

(日本評論社)(2021年4月)

『Before/After 民法改正 [第2版] 2017年債権法改正』

潮見佳男、北居功、高須順一、赫高規、中込一洋と共編著

(弘文堂)(2021年10月)

『債権 [第2版] エッセンシャル民法3』

永田眞三郎、松本恒雄、横山美夏と共著

(有斐閣)(2022年10月)

『民法入門・総則 [第5版補訂版] エッセンシャル民法1』

永田眞三郎、松本恒雄、横山美夏と共著

(有斐閣)(2023年3月)

『18歳からはじめる民法 [第5版]』

潮見佳男、中田邦博と共編著  
(法律文化社) (2023年4月)

『Before/After 民法・不動産登記法改正』

潮見佳男、木村貴裕、水津太郎、高須順一、赫高規、中込一洋と共編著  
(弘文堂) (2023年5月)

『物権 [第3版] エッセンシャル民法2』

永田真三郎、松本恒雄、中田邦博、横山美夏と共著  
(有斐閣) (2023年10月)

民法総合教材研究会編『民法総合・事例演習 [第3版]』

第Ⅲ部を横山美夏、橋本佳幸、和田勝行と共著  
(有斐閣) (2023年10月)

『判例講義民法Ⅰ総則・物権 [第3版]』

佐久間毅と共編著  
(勁草書房) (2024年5月)

#### 分担執筆

「寄託中の動産の所有権移転——債権法改正の影響の有無」

和田真一、大坂恵里、石橋秀起編  
『現代市民社会における法の役割 (吉村良一先生古稀記念論集)』  
(日本評論社) 457頁 (2020年8月)

„Kapitel 6 Bürgschaft“

in Keizo Yamamoto und Gabriele Koziol (Hrsg.) Das reformierte japanische  
Schuldrecht: Materialien zum ausländischen und internationalen Privatrecht 56,  
(Mohr Siebeck) 89頁 (2021年11月)

「第5条 登記がないことを主張することができない第三者」の注釈

鎌田薫、寺田逸郎、村松秀樹編

『新基本法コンメンタール 不動産登記法 [第2版]』  
(日本評論社) 27頁 (2023年4月)

「共有物を使用する共有者との関係」

潮見佳男、千葉恵美子、松尾弘、山野目章夫編

『詳解 改正民法・改正不登法・相続土地国庫帰属法』  
(商事法務) 47頁 (2023年6月)

「与える債務・なす債務」など55項目

高橋和之、伊藤眞、小早川光郎、能見善久、山口厚編集代表

『法律学小辞典〔第6版〕』

(有斐閣)(2025年1月)

『ヨーロッパ私法・消費者法の現代的課題と日本法』

中田邦博、若林三奈と共編

(日本評論社)(2025年2月)

## 論 文

「消費者撤回権と民法」

民法研究第2集〔東アジア編2〕55頁(2017年3月)

「特集 民法(債権法)改正・特集の趣旨」

民商法雑誌153巻1号1頁(2017年4月)

「契約による担保——事前求償権の扱いにおける保証と物上保証の異同」

民法研究第2集〔東アジア編3〕7頁(2017年8月)

「土地建物の使用借人の建替えによる取得時効の成否——所有の意思とその表示」

平野哲郎との共著

立命館法学381・382号229頁(2019年3月)

「譲渡担保立法の向かうべき方向——動産・債権等を目的とする担保」

法律時報92巻11号8頁(2020年10月)

「民法(債権関係)の改正と不真正連帯債務」

立命館法学399・400号851頁(2022年3月)

「法科大学院における民法の判例教育について(1)」

中山布紗、松本克美、和田真一との共著

立命館法学419号287頁(2025年7月)

「自動両替機内の金銭の所有権の帰属——大阪高判令和4年5月27日を素材に——」

山本敬三ほか編著 窪田充見先生追悼論文集刊行委員会編

『民法・民法学の将来像(窪田充見先生追悼論文集)』

(商事法務)67頁(2026年3月)

翻 訳

ハイン・ケッツ『ヨーロッパ契約法 [第2版]』

潮見佳男、中田邦博、長野史寛と共監訳  
(法律文化社) (2024年8月)

講演・シンポジウム・座談会等

「日本登記法研究会設立記念研究大会『不動産登記の未来』コメント」

法律時報89巻9号82頁 (2017年8月)

「第3回東アジア民法法学国際シンポジウム (東京) に参加して」

民法研究第2集 [東アジア編3] 1頁 (2017年8月)

「日本消費者法学会第9回大会シンポジウム『広告と消費者法』ディスカッション」

消費者法9号47頁 (2017年9月)

「第4回東アジア民法法学国際シンポジウム 各国の不動産利用権の特徴 総論

——不動産利用権一般 冒頭報告、韓国・台湾・中国へのコメント」

民法研究第2集 [東アジア編5] 7頁、195頁 (2018年8月)

「将来債権譲渡と抗弁の対抗 (債権法改正と実務上の課題 第9回)」

(高須順一との対談)

ジュリスト1523号94頁 (2018年9月)

「日本消費者法学会第10回大会シンポジウム

『キャッシュレス決済と立法政策上の課題』ディスカッション」

消費者法10号58頁 (2018年9月)

「日本登記法研究会第3回研究大会『不動産登記の真正の担保』七戸報告へのコメント」

法律時報91巻4号83頁 (2019年4月)

「平成の法学教育——民法分野を中心として」

(中田裕康、小粥太郎、鎌田薫 (司会) と座談会)

法律時報91巻9号76頁 (2019年8月)

「日本私法学会第84回大会シンポジウム

『担保法の現代的課題——新たな担保法制の構想に向けて』記録」(司会担当)

私法83号56頁 (2022年4月)

「日本登記法学会第7回研究大会『区分建物と登記』講評・総括」

法律時報95巻9号79頁 (2023年8月)

「国際学術シンポジウム『台湾民法改正の最新動向』解除に関する日台比較  
——陳洗岳論文へのコメント」

立命館法学408号 627頁 (2023年 8月)

「国際学術シンポジウム『台湾民法改正の最新動向』質疑応答」

(小田美佐子、詹森林(朱擘訳)、道垣内弘人、陳聰富(小田美佐子訳)、朱擘、  
松岡久和、陳洗岳(発言順))

立命館法学408号 654頁 (2023年 8月)

「シンポジウム『契約解釈の理論と実践』ディスカッション記録」

(山本敬三、田中洋、永野厚郎、中井康之、吉政知広、松岡久和(発言順)、  
木村敦子(司会))

民商法雑誌160巻 2号 1頁 (2024年 6月)

### 判例評釈

「債権の売買と再売買が譲渡担保であるとして金銭消費貸借に準じる取引に  
利息制限法を類推適用した事例」大阪地判平成29・3・3

現代民事判例研究会編

『民事判例15 2017年前期』

(日本評論社) 94頁 (2017年10月)

「不動産所有権の取得時効完成後に設定された抵当権と再度の取得時効の完成」

最判平成24・3・16

別冊ジュリスト237号『民法判例百選Ⅰ総則・物権 [第8版]』

118頁 (2018年 3月)

「転用物訴権」最判平成7・9・19

別冊ジュリスト238号『民法判例百選Ⅱ債権 [第8版]』160頁 (2018年 3月)

「共用部分に関する不当利得返還請求権の行使」最判平成27・9・18

金融法務事情2095号 84頁 (2018年 8月)

「担保裁判例の動向」

現代民事判例研究会編

『民事判例19 2019年前期』

(日本評論社) 13頁 (2019年10月)

「投資取引と勧誘業者の説明義務」東京地平成15・5・14

別冊ジュリスト249号『消費者法判例百選 [第2版]』152頁 (2020年 9月)

「不動産に対する商人間留置権」最判平成29・12・14

金融・商事判例増刊1636号 52頁（2022年3月）

「177条における第三者（2）；背信的悪意者」最判昭和43・8・2

松本恒雄、潮見佳男、下村信江編

『判例プラクティス 民法Ⅰ総則・物権〔第2版〕』

253頁（2022年3月）

「177条における第三者（3）；背信的悪意者でない悪意の第三者」最判昭和40・12・21

松本恒雄、潮見佳男、下村信江編

『判例プラクティス 民法Ⅰ総則・物権〔第2版〕』

254頁（2022年3月）

「担保裁判例の動向」

現代民事判例研究会編

『民事判例27 2023年前期』12頁（2023年12月）

#### 解説・随想・その他

「民法177条の第三者の範囲」

千葉恵美子、潮見佳男、片山直也編

『Law Practice 民法Ⅰ【総則・物件編】〔第3版〕』

（商事法務）212頁（2017年3月）

「抵当権の消滅」

千葉恵美子、潮見佳男、片山直也編

『Law Practice 民法Ⅰ【総則・物件編】〔第3版〕』

（商事法務）315頁（2017年3月）

「第23回インターカレッジ民法討論会〔第3部〕白熱！教員討論」

（パネルディスカッション記録）

法学セミナー752号 48頁（2017年9月）

「民法177条の第三者の範囲」

千葉恵美子、潮見佳男、片山直也編

『Law Practice 民法Ⅰ【総則・物権編】〔第4版〕』

239頁（2018年6月）

「抵当権の消滅」

千葉恵美子、潮見佳男、片山直也編  
『Law Practice 民法Ⅰ【総則・物権編】〔第4版〕』  
348頁(2018年6月)

「第24回インターカレッジ民法討論会〔第3部〕白熱!教員討論」

(パネルディスカッション記録)

法学セミナー762号 53頁(2018年7月)

「民法改正への対応準備はできているか」

BUSINESS LAW JOURNAL 129号 9頁(2018年12月)

「第25回インターカレッジ民法討論会 イントロダクション

インターカレッジ民法討論会とは」

法学セミナー776号 48頁(2019年9月)

「第25回インターカレッジ民法討論会〔第3部〕白熱!教員討論」

(パネルディスカッション記録)

法学セミナー776号 57頁(2019年9月)

「背信的悪意者排除の理論と現実」

web 日本評論 <https://www.web-nippyo.jp/tag/心に残る裁判例/>  
(後に小冊子「私の心に残る裁判例」vol.2 6-8頁に収録)(2019年9月)

「第26回インターカレッジ民法討論会〔第4部〕教員討論」

(パネルディスカッション記録)

法学セミナー788号 56頁(2020年9月)

「民法177条の第三者の範囲」

千葉恵美子、潮見佳男、片山直也編  
『Law Practice 民法Ⅰ【総則・物権編】〔第5版〕』  
240頁(2022年10月)

「抵当権の消滅」

千葉恵美子、潮見佳男、片山直也編  
『Law Practice 民法Ⅰ【総則・物権編】〔第5版〕』  
363頁(2022年10月)

\* 主要著作文献目録は、2017年以降。それ以前の方は、『松岡久和教授退職記念  
論文集』(京都大学法学会、2017年)巻末に掲載。